

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	田辺市立会津小学校	瀬田 公寛
学校所在地		
(〒 646-0005) 和歌山県田辺市下万呂59-1 tel 0739 (22) 1164 fax 0739 (22) 6372		
担当者名		役職名・担当教科
塩路 文哉		教諭・6年生学年主任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>田辺市立会津小学校は、田辺市街地の北東部に位置し、虎ヶ峰や高雄山・槇山の山並みを源として流れる右会津川と左会津川の合流点近くに立地している。校区は、これらの支流に沿って広がる万呂地区と秋津地区の二つの地域であり、古くから田畑が広がる農村地帯として発展してきた。近年は宅地化が進み、新たな住宅の建設が増加したことで児童数が大きく伸び、現在では田辺市内で最も児童数の多い小学校となっている。</p> <p>地域には縄文時代の遺跡や、熊野古道などの歴史的・文化的資源が多く残り、人々の往来が古くから盛んであったことがうかがえる。このような地域の特性を生かし、学校では総合的な学習の時間を中心に、自然環境や歴史文化を題材とした学習活動を積極的に展開している。特に熊野古道を活用したフィールドワークや地域講師による学習は、児童が地域への誇りや愛着を育む機会となっている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
小学6年生 79名	職員 5名	教室、多目的室、会津校区、三栖地区、熊野古道
実践研究テーマ		
地域と共に生きる子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	地域での学びを広げよう ― 世界遺産 熊野古道 を学習フィールドとして ―	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習、熊野古道、地域の価値発見、史跡めぐり、道普請</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <p>本宮の熊野古道と地域の熊野古道について調べ、両者を比較しながら探究的な見方・考え方を働かせる学習を通して、「ひと」、「もの」、「こと」に関わる教科横断的・総合的な理解を深め、地域のよさを主体的に発見し、その価値を自分の言葉で発信しようとする態度を育てる。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 25 時間 （「地域での学びを広げよう」）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>○三栖地区の語り部との連携 史跡めぐりの事前学習として、語り部の方に相談し、地域の史跡に関する説明や見どころについてレクチャーを受けた。</p> <p>○世界遺産センターとの連携（出前授業） 世界遺産センターの職員に来校いただき、世界遺産の基礎知識や熊野古道の歴史的価値についての出前授業を実施した。</p> <p>○道普請体験・熊野古道ウォークでの連携 道普請体験や熊野古道ウォークの際、世界遺産センター職員および和歌山県世界遺産マスターの方に引率・安全面のサポートや、現地での解説などをしていただいた。</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	秋津・万呂・三栖地区の史跡を巡り、地域にも熊野古道が通り、多くの歴史的建造物が残っていることを学ぶ。	事前学習を丁寧に行い、現地では絵や写真、キーワード提示などを用いて理解を助ける。	ワークシートの記述 発言内容
2	世界遺産センターの土永さんの話を聞き、世界遺産の成り立ちや価値について理解を深める。	社会科で扱った内容を事前に復習し、既習事項と結び付けて聞けるようにする。	ワークシートの記述 発言内容
3	田辺市本宮で道普請体験を行い、熊野古道を守り伝える人々の思いや活動を体験的に学ぶ。	安全面に十分配慮し、活動の目的や作業の意匠を適宜言葉で補いながら支援する。	ワークシートの記述 発言内容
4	熊野古道ウォークを行い、道の特徴、地形、文化的景観、人々の祈りや往来の歴史を体感的に捉える。	歩くポイントごとに写真や地図を示しながら、気づきを促す問いかけを行う。	ワークシートの記述 発言内容
5	模造紙やスライドに、学習で得た知識、気付いたこと、感じたことを整理し、地域のよさをまとめる。	比較の視点（本宮と地域）、ひと・もの・こととの視点などを提示し、まとめ方の見通しをもてるよう支援する。	まとめの内容 発表の様子 振り返りの記述
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>本単元の学習では、語り部の方や世界遺産センターとの連携、史跡めぐり・道普請体験・熊野古道ウォークなどの体験的な学習を通して、子どもたちが地域の歴史や熊野古道の価値に関心をもち、自分たちの地域を誇りに思う気持ちが高まった。また、本宮と地域の熊野古道を比較する活動を取り入れたことで、児童が違いに気付いたり、自分なりの視点で地域を見つめ直したりする姿が見られ、学習した内容を自分の言葉でまとめて発信しようとする意欲も育った。</p> <p>一方で、比較の視点を自分で設定することが難しい子もおり、学習のねらいを意識しながら活動を進めることには差が見られた。また、体験活動では活動そのものに意識が向き、学習の視点を十分に働かせられない場面もあった。今後は、比較の視点を明確に示す支援や、体験と学びを結び付ける振り返りの充実を図り、探究活動をさらに深めていく必要がある。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産学習では、語り部の方や世界遺産センターとの連携、体験的な活動を通して、子どもたちが地域の歴史や文化に主体的に関心をもちようになった。実際に歩いたり作業したりする中で、熊野古道が多くの人々に支えられてきたことを実感し、地域の価値を自分ごととして捉える姿が見られた。また、本宮と地域の熊野古道を比較する学習を取り入れたことで、子どもたちは共通点や違いに気づき、自分の視点で地域を見つめ直す力が育った。さらに、学習のまとめでは、得た知識や感じたことを自分の言葉で整理し、地域のよさを発信しようとする意欲が高まり、地域への愛着の深化につながった。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産学習では、体験に意識が向きやすく、学習の視点を十分に働かせられない場面もあったため、比較の視点や学習のねらいを事前により明確に示す工夫が求められる。また、学習内容を整理し、自分の考えとして表現する力を高めるために、振り返りの時間を充実させる必要がある。今後は、世界遺産センターの皆さんとより連携し、現地での学びをより深めるための説明や資料提供など、子どもたちが理解を深めやすい支援の在り方について協働していきたい。</p>			

様式 2

令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

○ 史跡めぐり

実施日時：令和7年11月7日（金）

実施場所：会津小学校⇒秋津地区⇒万呂地区⇒三栖地区



コメント

史跡めぐりでは、歩きながら地域の昔の姿や人々の思いにふれ、子どもたちが「こんなところに遺跡があったんだ」と新しい発見を楽しむ姿が見られた。地域をもっと好きになる学びとなった。

○ 土永さんのお話

実施日時：令和7年11月14日（金）

実施場所：会津小学校 多目的ホール

コメント

世界遺産センターの土永さんに来ていただき、お話を伺った。土永さんのお話では、世界遺産としての熊野古道がどのように守られ、どんな思いで受け継がれてきたのかを子どもたちに分かりやすく伝えていただいた。実際の写真やエピソードを交えて語っていただいたことで、学びがぐっと身近になり、これからの学習への意欲が高まる時間となった。

○ 道普請活動

実施日時：令和7年2月10日（火）

実施場所：熊野古道（本宮）



コメント

伏拝王子まで歩いた後、熊野古道の道普請を行った。子どもたちは土置き場と作業場所を往復し、協力して土を運び入れた。作業は体力を要したが、最後まで集中して取り組む姿が見られた。歴史ある道を守る活動を通して、地域への関心も高まっていた。

○ 熊野古道ウォーク

実施日時：令和7年2月10日（火）

実施場所：熊野古道（本宮）



コメント

伏拝王子周辺から、本宮大社までの熊野古道ウォークを実施した。道中では、世界遺産マスターの方から、熊野古道の歴史や信仰、地域に受け継がれてきた文化などについての説明を受け、子どもたちは古道の背景についての理解を深めながら歩みを進めた。長い行程であったが、互いに声をかけ合い、落ち着いて歩き通す姿が見られた。世界遺産として守られてきた熊野古道を実際に歩き、その価値に触れることで、地域の文化や自然への関心が高まる活動となった。